2022年6月19日 川越教会

丸山　勉

大いなる譲歩

［コロサイの信徒への手紙3章5～17節]

だから、地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。これらのことのゆえに、神の怒りは不従順な者たちに下ります。あなたがたも、以前このようなことの中にいたときには、それに従って歩んでいました。今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。そこには、もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです。あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。また、キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝していなさい。キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。

[１]　立ち止まって思い巡らすこと

今日の聖書の言葉は、前半の方はあまり耳にしたくない言葉が多くありましたけれども、特に後半の方は「愛は全てを結ぶきずなです」とか、美しい言葉がたくさん出て来て、「ああ、いい言葉だなあ」と思いますよね。でもそういう耳障りの良い言葉は意外とスーッと通り過ぎてしまって引っかからないことが多い気が致します。意識的に立ち止まって思い巡すことの大切さを思います。丁度あのマリアが、天使の言葉を「これは一体どういうことなのか、思い巡らしていた」というのと同じように。聖書の言葉は、解説書を読むよりも、「今の自分にとって、この言葉を通して神様は何を語ってくれているのか」を自分なりに読んでいくということが、信仰生活（Life）にとってはとても大切だと思わされます。

今日の箇所の中でパウロは「平和」・「キリストの平和」という言葉を語っています。美しい言葉ですが、無風状態の何もない状態が「平和」なのでしょうか。パウロが「キリストの平和があなた方の心を支配するようにしなさい」（コロサイ3:15）と言った時、人間の心の中には本当の意味の平和がない、ということを良く知っていたのでそのように語った（しかも信仰者に対してです）のではないでしょうか。その中で私たち自身の内側もやはり探られます。あなたの心の中に「キリストの平和」と言えるものがありますか？むしろそれとは反対と思える心に支配されている、ということはないでしょうか、と。

［２］ 「地上のもの」と「天上のもの」の違い

「コロサイの信徒への手紙」全体の中でとても大事な言葉というのは、3章の冒頭の箇所だと思うのです。そこも読んでおきたいと思います。1～4節。―「さて、あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい。あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」本当に私たちの眼差しを上へと上げさせてくれるみ言葉ではないでしょうか。この時のコロサイの教会の人々は、信仰を与えられていながら、人間の側の苦行や、救いに至ると思われていた手段も重んじていたようです。例えば少し前の2章の21節で「手をつけるな。味わうな。触れるな、などという戒律」（これは食事上のことですが）とありますが、そういうようなことはもう主イエスの福音を信じた者には無用だということが分からない、そのことをとても心配して、「あなた方は上にあるものを求めなさい。地上のものに心引かれないようにしなさい」と語ったのです。しかし、これはただコロサイの教会の問題ではなく、私たちも一緒です。「地上のもの」と「天上のもの」という全く異なるものが、私たちの心の中にはまだあるのです。どうしようもなくあるのです。

そこで、3章5節以下には「地上的なもの」のリストが書いてあります。「地上的なもの、すなわち、みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望、および貪欲を捨て去りなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。」さらにこうも言います。「怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそをついてはなりません。」そして、このような事柄と全く対照的な心というのが12節に書かれています。―「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい」。これこそが「地上のものに心を引かれない」あなた方の身に着けるべきものなのですと。私はちょっと立ち止まって考えてみました。この二つの対照的な事柄（同じ人間の中に起こる二つの思い）はどういう点で異なるのかと。そして思いました。これは、かかっている時間が違うのだと。前者の方は、ある意味とても動物的（本能的・一時的）だと言ってもいいと思います。「みだらな行い、不潔な行い、情欲、悪い欲望」。また8節にある「怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉」。放っておくと、私たちはそのようなものの虜になってしまいます。戦争が人間の力によっては解決できず、泥沼化していくだけのものになってしまうのもそういうことなのではないでしょうか。それとは逆に「憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容」また「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい」とか「これらすべてのものに加えて愛を身に着けなさい」とパウロが言うこれらのことは、とても簡単なことではないと思います。誰か具体的な人との関係が問われます。これはまず相手のことをそのまま認めるということがないと出来ないと思います。理性的な、冷静な心が必要だと思います。これは‟一瞬”のことではなく、時間が必要なのだと思います。

［３］ イエス様の完全な「譲歩」

ちょっと話は変わりますが、桂 宮治という今売れっ子になっている師匠の落語家がいますけれども、この間ラジオで話をされていることを聞いて素晴らしいなぁと思いました。メールのプチ人生相談で、「結婚は良いものですか？悪いものですか？」という問いに「自分の経験だけれど、結婚は墓場だなんて冗談っぽく言う人多いけれど、俺は人生でほぼほぼ良いものは結婚してから貰ったと思う。結婚というのは長いんだ。基本的にどちらかが死ぬまで付き合う訳で、初めの頃の好き好き、ウキウキワクワクなんていう気分は変わってきて当然。お互いちょっとしたことでイライラすることもあるけど、相手が凄いやと思うことは、どんな俺も認めてくれる。言いたいこと沢山あるかも知れないけれど、黙って見ててくれる。わがままかと思うことも「あなたがいいと思うんだったらやってみれば」と言ってくれる。赦してくれる。俺は鵜飼いの鵜のようなもので、実は相手の手綱の中で自由に泳げているんだと思う。俺も相手のことを尊敬しているから、喧嘩したことなんかないよ。子供も3人にもいるし楽しいよ」と。

これ、キーワードは「尊敬」と「赦し」なんだと思いました。愛は、時間をかけて育って行くものなのでしょう。パウロも、私たちの心に「慈愛」「謙遜」「柔和」「愛」が宿るためには、大きな愛に捕らえられることが決定的に大事だと言っていると思います。12節には「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから」と言っています。聖書は神様から私たちへの大肯定であり、ラブレターなのです！何しろ、キリストご自身が私たち罪人を裁かず、赦すという譲歩をして下さったではないか、と言っているのです。13節。「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」 私たちはいつも「自己主張」のぶつかり合いが、私たちの交わりを生きにくいものにしていると思います。具体的な人間関係がそうですよね。その時に、‟一時的な”感情に捕らわれないで、冷静になって相手のために祈りをもって「譲歩」するのです。主イエス様は「完全な譲歩」をして下さいました。十字架です。十字架は、私たちが地上のものに心引かれないで上を仰ぐことが出来る道です。神と人、この対立が、イエス様が十字架にかかることによって終わったのです。これが「キリストの平和」です。不思議な平和ですが、でも、これ以上ない平和です。それを私たちは、特にこの毎週の合同の礼拝で神様から頂いているのではないでしょうか。ご一緒に神様を讃美しましょう。16節。―「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。」　 お祈りを致します。

主よ、今日このようにご一緒に礼拝を捧げることが出来て感謝致します。私たちは弱い者で、いつも分裂する心に悩まされます。けれども、どうか上を仰がせて下さい。イエス様の十字架を仰がせて下さい。イエス様のもとにあって、あらゆる私たちの罪、偏見、思い込みから解き放ってくださいますように。具体的な私たちの人間関係の間にいつもあなたがいて下さっていることを見失うことがないように導いて下さい。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。